

「世界の工場」から、ITやハイテク、バイオなど先端産業への転換を図る中国政府は、深圳をイノベーション都市にしようとしている。街でよく聞いた言葉は「大衆創業 万衆創新(大衆の起業、万人のイノベーション)」。事実、政府は若者のアイデア実現とそのビジネス化を手厚く支援している。結果、深圳は中国全土から優秀な若者を惹き付け、市の平均年齢32歳、65歳以上は人口のわずか2%という特異な街となった。街で会った若者はみな目を輝かせ、流暢な英語を話す者も多い。明るい未来が約束されたかのような深圳と中国経済だが、その前途には基本的な問題がある。「二党支配の下での若者の『企業家精神』が中国経済の原動力」という概念自体が内包する矛盾がそれだ。事実、深圳訪問中、筆者のスマホはインターネットにはつながったが、中国政府に批判的な記事の検索は一切できなかった。民主主義や基本的な人権の尊重や所有権を含む法体系に問題をはらむ「国家主義的資本主義」は持続可能なのか、という命題に中国はチャレンジしていくことになる。(慶)

未来都市・深圳

この欄は、第一線で活躍している経済人、学者ら社外筆者が執筆しています。



完全チャット
シユレス社会
で、「未来都市」と称される中国・深圳を訪ねた。

のイノベーション)」。事実、政府は若者のアイデア実現とそのビジネス化を手厚く支援している。結果、深圳は中国全土から優秀な若者を惹き付け、市の平均年齢32歳、65歳以上は人口のわずか2%という特異な街となった。

アリババのライバルで利用者10億人のSNS「ウィーチャット」を運営するテンセントが本社を構える街だ。通信機器のファウエイやドローンの世界シェア7割超のDJIの創業の地であり、遺伝子編集によるデザイナーベビーを誕生させたとする南方科技大学や海外企業のラボを含め、教育・研究機関も多い。香港に隣接するかつての漁村は1980年に中国初の経済特区となつて以降、世界最速で成長し、今や人口1300万人の豊かな先端都市となった。

街で会った若者はみな目を輝かせ、流暢な英語を話す者も多い。明るい未来が約束されたかのような深圳と中国経済だが、その前途には基本的な問題がある。「二党支配の下での若者の『企業家精神』が中国経済の原動力」という概念自体が内包する矛盾がそれだ。事実、深圳訪問中、筆者のスマホはインターネットにはつながったが、中国政府に批判的な記事の検索は一切できなかった。

香港に隣接するかつての漁村は1980年に中国初の経済特区となつて以降、世界最速で成長し、今や人口1300万人の豊かな先端都市となった。

民主主義や基本的な人権の尊重や所有権を含む法体系に問題をはらむ「国家主義的資本主義」は持続可能なのか、という命題に中国はチャレンジしていくことになる。(慶)